

校長室だより 春日 (しゅんじつ)

校長 清武 直人

メダカ

去年の5月頃、たくさんのメダカの卵をもらいました。数日が経ち、メダカを入れた大きな鉢の水の中をよく見ると、メダカの赤ちゃんが誕生していました。小さな小さな赤ちゃんでした。

その日から、メダカの赤ちゃんの餌やりが始まりました。メダカは、少しずつ大きくなっていきました。

秋になり、冷たい風が吹き始めると、メダカは水草の下に潜り、姿を見せなくなっていました。冬が来て、そして春がやってきました。

温かい風が吹き始めると、またメダカが水面に姿を見せ始めました。冬の寒さに凍えて、みんな死んでしまったのではないかと心配していましたが、元気な姿を見てほっとしました。



でも、よく見ると、しばらく見ないうちに大きく育ったメダカもいれば、赤ちゃんの時のままの小さなメダカもあります。みんな同級生なのに大きさが随分違います。

普通のメダカの餌では、小さなメダカの口には入りません。メダカの餌をさらに指先ですりつぶして、小さなメダカの口に入るくらい大きさにしてあげることになりました。

いつの間にか、私が鉢のそばに来ると、大きなメダカも小さなメダカも、みんな口をパクパクさせながら水面に上がってくるようになりました。

そんな日が続く内に、小さなメダカも少しずつ大きくなってきました。まだ、大きく育った同級生には追いつきませんが、夏になる頃にはきっと同じ位の大きさに育っているのではないかと思います。



ふと気がつくと、私の目はいつも小さなメダカを追いかけているのです。そして、この小さなメダカの成長がいつの間にか私の喜びとなっているのです。



杏莉さんのノート

6年生の杏莉さんのノートを見せてもらいました。ノートには、めあてが書いてありました。

「1年生のお世話の方法について考えよう。この子に合った方法で！」

6年生と1年生はこれから1年間一緒に活動を共にするペアが決まりました。6年生は、これから、ペアの1年生のいろいろなお世話をするようになります。もちろん、先日の歓迎遠足も一緒でした。

杏莉さんは、ペアになった1年生の女の子と初めて出会った時、少しおとなしそうに感じたそうです。ところが、時間が経つにつれて、この子の明るさに気づき始めたのだそうです。

そこで杏莉さんは、ノートの最後にこう書きました。

「この子が友達をさそって楽しく遊ぶことができるようにしていこう！」

なんて可愛らしい1年生。
この子のために
私に何ができるのかしら。

なんて優しいお姉さん。
私と一緒に遊んでね。
私のお話
たくさん聞いてくださいね。

温かい27年度が動き始めました！



